

Ⅲ. 義肢装具学科の人材養成の目的と3ポリシー

【学部の人材養成の目的】

保健医療学部は、医療技術と健康生活の向上や改善に資する理論と技能、人間の運動機能の向上・支援に関する理論と技能、高度医療に不可欠な工学的知識と応用能力を軸とした医療と福祉に関する専門性に優れ、チーム医療を総合的に捉えつつ次代の保健医療学を創造・実践できる人材を養成することを目的とする。

【学科の人材養成の目的】

義肢装具学科では、社会生活を送るうえで必要となる知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、創造的思考力及び義肢装具士として生涯成長し続けるための基盤となる能力の習得のもとに、義肢装具学分野に関する必要な知識、技能及び態度を有し、義肢装具学及び総合大学での学びを活かして、地域社会の健康と活性化に貢献する次のような人材を養成する。

- ①義肢装具士として必要な専門的知識と実践的スキルを体得し、卒業直後から指導助言のもとに義肢装具の製作適合等ができる能力を有した人材
- ②義肢装具学研究に関する思考力と創造性を有し、問題解決に向けて取り組むことができる人材
- ③保健・医療・福祉制度の下で、他の関係職種と連携・協働し、義肢装具士としての役割を果たせる人材

義肢装具学科ディプロマ・ポリシー

義肢装具学科は、「科学的市民」の育成という教育理念のもとに以下の資質や能力を身につけ、所定の授業科目を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に、学士（義肢装具学）の学位を授与します。

1. コミュニケーション力

論理的な思考力、記述力、発表と議論の能力を有し、他者と適切なコミュニケーションを取ることができる。

2. 課題を発見し、問題を解決する力

必要な情報を収集・整理・分析する能力を有し、さまざまな課題に柔軟に対応できる。

3. 自らを律し、学び続ける力

目標達成のための計画を立案・遂行できる能力を有し、医療福祉を支える知識・技術を自主的・継続的に学習できる。

4. 他者と協力して目的を達成する力

文化・社会の多様性を理解できる幅広い教養と豊かな人間性を有し、他分野とも協力して地域社会の発展に貢献できる。

5. 専門的知識・技能を習得し、実践する力

義肢装具学分野の専門知識及び実践的能力を有し、医療福祉に関するさまざまな課題に対し、柔軟かつ迅速に対応できる。

6. 総合力

修得した能力を総合的に活用して、社会に存在する課題や自ら立てた新たな課題を解決し地域社会の発展に貢献できる。

義肢装具学科カリキュラム・ポリシー

義肢装具学科では、基本教育科目、専門基礎教育科目、専門教育科目の有機的な結合によって、義肢装具士としての専門能力と専攻分野を通じて学士力を培うことを目指したカリキュラムを設計します。このことを明確にするために、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために必要な授業科目の流れや、各項目と授業の整合性を体系的に理解できるようカリキュラム・フローを作成します。また、各授業科目の達成目標とディプロマ・ポリシー各項目の関連性を集約したカリキュラム・マップを作成します。さらに、教員団はその組織的関与により、常にカリキュラムの点検評価、及び改善を行います。学修成果やカリキュラムの点検評価の方針をアセスメント・ポリシーとしてまとめています。

1. 豊かな人間性及び幅広い教養を身につけるため、基盤能力、学修スキル、コミュニケーション力を培う基本教育科目、専門基礎教育科目を配置します。
2. 専攻分野に必要な基本スキルを育成するための基本教育科目、専門基礎教育科目を配置し、領域ごとに最適化された専門知識・技能修得のための専門教育科目を配置します。
3. 基盤能力と専門的知識・技能に関連する科目を体系的、効率的に修得できるよう配置します。
4. 自ら学ぶ力の醸成や能動的学修をサポートするため、充実した学内 LAN 環境、e-learning 環境などの優れた IT 環境を提供します。
5. 現代社会の多様な義肢装具領域のニーズに応えるため、最新かつ高度な知識及び技能を学ぶ専門教育科目を配置します。
6. 義肢装具士に求められる実践的な経験を積み、協力・協調する姿勢と自ら課題を発見し、問題を解決する能力を育成するため、実際の義肢・装具使用者のニーズを題材とした少人数グループで行う演習科目、実習科目を実施します。
7. 自らの力を客観的に評価する専門教育科目における実習や臨床実習における症例経験、報告活動を通して、実践的能力と自律的学習能力を育成します。
8. 教育目的達成度調査結果、学生調査などに基づくポートフォリオ面談を行い、学生個々の学習成果とコンピテンシーについて長期的なルーブリックを用いた形成的評価を行います。
9. 1 年次から 4 年次までに修得した知識・技能・態度の到達度と獲得したコンピテンシーについて単位取得状況、GPA、臨床実習、卒業研究により総合的評価を行います。

北海道科学大学アセスメント・ポリシー

－ 3つのポリシーと学修成果の評価に関する方針－

本学ではディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP)、アドミッション・ポリシー (AP) の3つのポリシーに基づく教育の実施と不断の改善・改革を教育の内部質保証の中核ととらえます。本ポリシーは、この3つのポリシーそのものの妥当性と、これに基づく教育の実施にあたっての学修成果及び教育成果（大学、プログラム、授業科目、学生の達成度）の評価の方針を定めたものです。これらの結果をそれぞれの対象にフィードバックするとともに、全学的に集約して教育の改善を組織的に継続して行います。

■教育理念・人材養成の目的と DP の整合性

教育目的達成度調査、学生調査、外部試験などの結果と下記の学科、授業科目、学生に関する評価結果を全学的に集約し、大学全体での学修状況を評価します。また、学生の進路（就職率、国家資格取得率等）や卒業生、企業アンケート、産業界からの意見聴取などから、各学科の DP が社会における顕在・潜在ニーズを踏まえているかとともに、学修成果の水準設定の妥当性などを確認します。

■DP-CP の整合性と学修成果の評価基準

・学科（教育課程）を対象とする評価

単位取得状況・GPA・進級状況、および学科の定める資格の取得状況などで、学年ごとの学修状況を評価します。また、毎年行う教育目的達成度調査、および1・3年次に行う大学 IR コンソーシアム学生調査、汎用的技能・志向性を測定する外部試験などを集計した結果から、教育課程全体を通じた学修成果・教育成果の達成状況を評価します。さらに、学科の所定の科目の単位取得状況と卒業研究により、教育課程の体系性と専攻分野における知識・技能・態度の達成度とコンピテンシーを総括的に評価します。

・授業科目を対象とする評価

成績分布、授業改善アンケート、および教育目的達成度調査などの結果とカリキュラムマップ詳細版などを用いて、個々の科目の目標の達成度合、達成目標と DP との整合性、授業の内容・方法（能動的学修の充実や質的転換の観点）、成績評価手段などに関する評価を行います。

・学生を対象とする評価

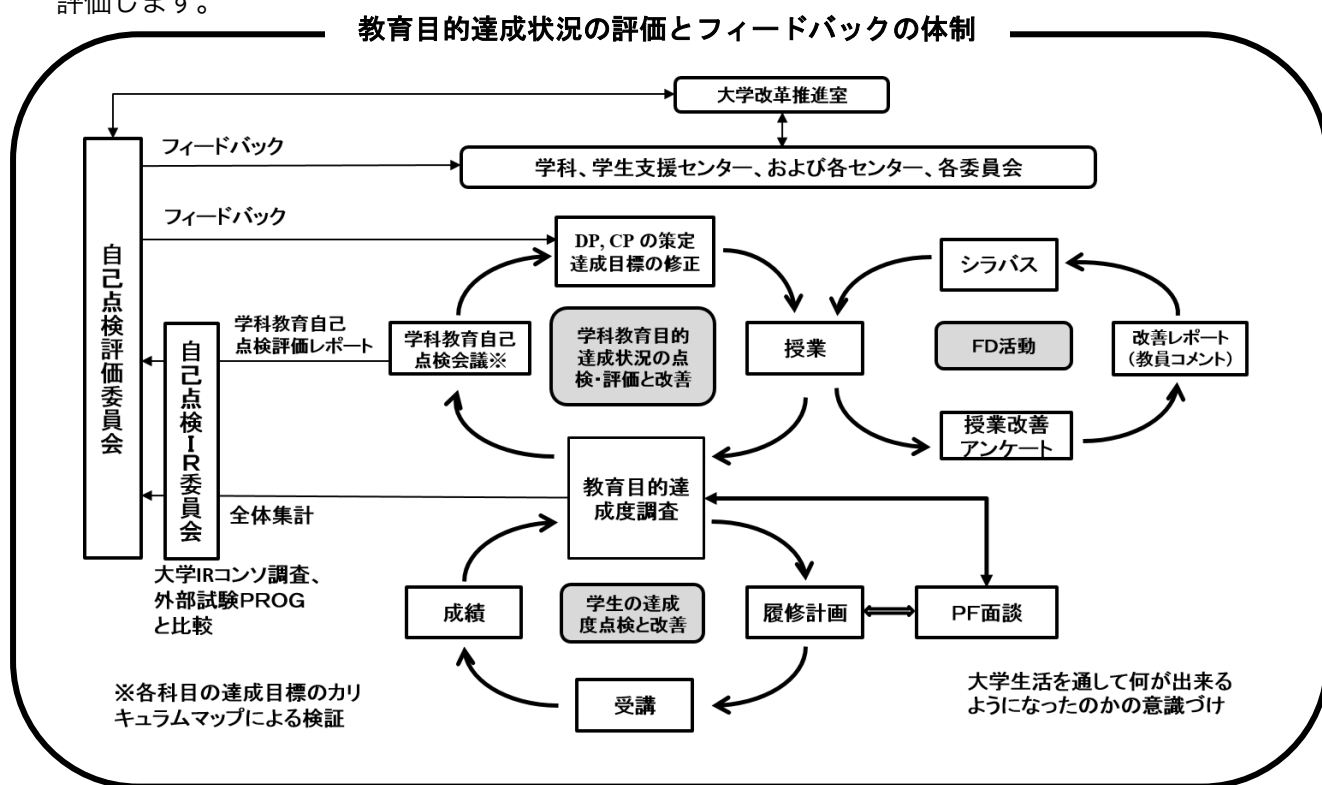
教育目的達成度調査結果、学生調査結果などに基づくポートフォリオ個別面談を行い、

個々の学修成果とコンピテンシーに関する長期的ルーブリックにより、その時点でどの程度教育目標を達成できているかの形成的評価を行います。

学生個々の単位取得状況、GPA、卒業研究などにより、専攻分野における知識・技能・態度の達成度とコンピテンシーを総括的に評価します。

■DP、CPに基づく教育とAPの整合性

入学生に求められる学習成果（学力の3要素）について、入学試験結果、新入生学力調査結果、および1年前期に実施される汎用的技能・志向性に関する外部試験結果によって測定を行います。この結果に基づいて、各学科のAPおよび入学者選抜方法の妥当性について評価します。



学科教育自己点検会議における主要な検討事項

学生個々の学修の進捗とともに、

- ①プログラム全体の中で個々の授業科目が学生の能力育成のどの部分を担うかについて教職員の認識が十分か
- ②他の授業科目等と連携・関連し合いながら組織的に教育を展開できているか
- ③学修成果・教育成果をプログラム共通の考え方や尺度で評価し、その結果をプログラムの改善・改革につなげるというPDCAサイクルが回る構造になっているかについて、検証を行います。

義肢装具学科 アドミッションポリシー

① 基本方針

義肢装具学科では、「義肢装具士として必要な専門的知識と実践的スキルを体得し、卒業直後から指導助言のもとに義肢装具の製作適合等ができる能力を有した人材、義肢装具学研究に関する思考力と創造性を有し、問題解決に向けて取り組むことができる人材、保健・医療・福祉制度のもとで、他の関係職種と連携・協働し、義肢装具士としての役割を果たせる人材」の育成を通じ、地域社会の健康と活性化に貢献します。そのために、以下のような資質・能力・意欲をもった学生を受け入れます。

② 求める人材像と学力の3要素

求める人材像		知識	思考力	主体性
		技能	判断力	多様性
		表現力	協働性	
義肢装具学に興味を持ち、保健・医療・福祉を通じて社会貢献する意欲を持つ人	→	△	○	◎
義肢装具士としての専門知識とスキルを高め続けることができる人	→	◎	△	○
義肢装具学を学ぶための基礎学力を有し、高い勉強意欲のある人	→	○	◎	△
	→			
	→			

③ 学力の3要素と求める学習成果

学力の3要素		学力試験	調査書	発表	推薦書	集団面接
知識・技能	→	学力試験	調査書	発表	推薦書	集団面接
思考力・判断力・表現力	→	学力試験	調査書	発表	レポート	個人面接
主体性・多様性・協働性	→	推薦書	集団面接	自己推薦書	集団討論	

④ 求める学習成果と入学者選抜方法

入学者選抜方法	学力試験	調査書	発表	レポート	推薦書	集団面接	個人面接	自己推薦書	集団討論
新ガリレオ入試	→ △		○	◎		○	△	△	◎
公募推薦入試	→ △	○			○	◎		○	
一般入試	→ ◎								
自己推薦入試	→ △	○					○	◎	
大学入試センター試験利用入試	→ ◎								
外国人留学生入試	→ ○						◎		

⑤ 入学前に習得すべき内容・水準

- ・社会における諸問題を解決するため、自然、社会、文化に関する偏りの無い基礎知識を習得していること。
- ・義肢装具学を中心とする学士課程教育を学ぶための必要な基礎学力(国語、外国語、数学、理科、地理歴史、公民)を有すること。
- ・専門職として自分を磨き続ける必要性を理解し、高等学校等において、明確な目的意識を持って主体的に学ぶ経験をしていること。
- ・保健・医療・福祉は人との交流のなかで行われるので、聞く、話す、読む、書く能力(コミュニケーション能力)を身に付けていること。
- ・人の健康を守る専門職を目指す者として、健康な生活を送るための生活習慣を身に付けていること。

※記号(◎, ○, △)は重要度の順序を表しています。